

株主通信

ゼンショーサポーターズクラブ[ZSC] 会員募集中!!

ZSC(ゼンショーサポーターズクラブ)とは

「ZSC」は、株主の皆様とゼンショーをつなぐ架け橋です。ゼンショーからは、経営方針やゼンショーのことがよくわかる旬な情報紙、会員専用通販ショップのご案内などをお送りします。一方で、会員の皆様からご意見・ご要望をお寄せいただき、経営にフィードバックすることにより、双方向コミュニケーションを図り、企業価値と株主還元を高めることを目的としています。



ZSCキャラクター「ゼンショーくん」

ZSC会員だけの特典

- ① 「会員情報紙」の送付
- ② グループ店舗で使えるお得な「特別お試し券」の送付
- ③ ZSCオリジナル商品の特別販売(通販)

①情報紙

②特別お試し券

③ZSCオリジナル商品の販売



入会をご希望の方は...

- ① 同封の「サポーターズクラブ入会案内ご請求ハガキ」をご返送いただくか、
- ② 同封の「株主様お食事ご優待券のご案内」をご確認の上、株主優待券でご入会ください。

会費
入会金
500円
+
年会費
1,000円

(入会は任意です)



写真：ゼンショーグループの新メニューと冬メニューより

「ジョリーパスタ」東北初出店

東北初出店の「ジョリーパスタ」奥州水沢店。
隣の「はま寿司」奥州水沢店と同時に9月11日オープン。



2015年3月期 第2四半期
ゼンショーグループサマリー

- ◆ 2014年7月、台湾に「すき家」1号店がオープン、
2014年9月、上海で「はま寿司」1号店と、インドネシア
で「すき家」1号店がそれぞれオープン。
- ◆ 2014年11月10日に業績予想及び配当予想の
修正を発表

目次

トップメッセージ	2
財務ハイライト	4
カテゴリー別レビュー	9
インタビュールーム Q&A	11
株主優待制度	13

株主のみなさまへ



株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長兼社長兼CEO

小川 賢太郎

2015年3月期第2四半期連結累計期間(2014年4月1日から2014年9月30日)の業績は、売上高2,515億87百万円(前年同期比10.5%増)、営業利益11億72百万円(同73.0%減)、経常利益10億70百万円(同74.0%減)、四半期純損失22億31百万円(前年同期は四半期純利益4億4百万円)となりました。2015年3月期第2四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、100店舗出店、44店舗退店等により、4,857店舗となりました。

各カテゴリー別の既存店売上高前年比につきましては、「すき家」をはじめとする牛丼カテゴリーが105.0%、「ココス」、「ジョリーパスタ」をはじめとするレストランカテゴリーが100.1%、「はま寿司」をはじめとするファストフードカテゴリーが104.4%と、比較的堅調に推移しました。しかし、収益面につきましては、牛丼チェーン「すき家」における一時的な営業休止によるマイナス影響に加え、牛肉価格をはじめとする食材価格の高騰等により、前年対比31億円の減益となりました。

「すき家」の24時間営業の再開には、従業員の採用が不可欠であります。6月から「すき家」を全国7社に分社化したことで、採用を含めたよりきめの細かい事業運営が可能となり、アルバイトの応募状況は10月の前年対比で

128%、採用も118%と大きく改善されています。今後とも24時間営業の再開を最優先事項として引き続き採用強化に努めるとともに、食材価格や為替相場の動向を見ながら、商品政策、価格政策を含めた総合的な取り組みを行ってまいります。

当社グループは、株主の皆様に対する安定した利益還元を経営の重要政策の一つと考え、積極的な業容の拡大と内部留保金の充実を図りながら、業績に応じた利益配分を行うことを基本方針としています。しかしながら、前述のとおり2015年3月期において当期純損失が見込まれることから、誠に遺憾ではございますが、2015年3月期第2四半期および期末の配当を見送らせていただくことといたしました。

株主の皆様にはご迷惑とご心配をおかけし、大変申し訳ございません。しかし、ここで一つ壁を乗り越えることでゼンショーグループの経営基盤はより強固なものとなると確信しています。この経験が国内、海外での更なる展開においてフード業世界一へ向けた力強い推進力になると考えています。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

連結損益計算書(要旨)

(億円・切り捨て)

	14年3月期 第2四半期累計	15年3月期 第2四半期累計	増減
1 売上高	2,276	2,515	+239
売上原価	903	1,075	+171
販売費及び一般管理費	1,329	1,428	+99
2 営業利益	43	11	△31
経常利益	41	10	△30
当期純利益	4	△22	△26

POINT
1

売上高は対前年で増加

2015年3月期第2四半期の売上高につきましては、「はま寿司」を中心とした積極的な出店による業容の拡大や、M&Aによるスーパーマーケット事業の拡大等により、2,515億円(前年同期比10.5%増)となりました。また、グループ全体の既存店売上高前年比は102.8%と堅調に推移いたしました。

売上高



POINT
2

**原価上昇および「すき家」の深夜時間帯営業の一時休止が
主要因で減益**

グループ全体の既存店売上高前年比は102.8%と増加したものの、牛肉を中心とした原材料価格の高騰や、主力業態である牛丼チェーン「すき家」における深夜時間帯の複数人勤務体制の確立、またそれに伴う深夜時間帯営業の一時休止の影響等により、2015年3月期第2四半期の営業利益は11億円(前年同期比73.0%減)となりました。

営業利益



POINT
3

自己資本比率・純資産比率は横ばいで推移

当第2四半期末の資産につきましては、新規出店や既存店への設備投資等により、前期末から5億円の増加となりました。負債につきましては、未払消費税等の増加等により、前期末から21億円の増加となりました。純資産につきましては、利益剰余金の減少等により、前期末から16億円減少いたしました。自己資本比率は22.7%、純資産比率は27.1%と、前期末比ほぼ横ばいで推移いたしました。

連結貸借対照表(要旨)

(億円・切り捨て)

	前期末 2014年3月31日	当期末 2014年9月30日	増減
資産の部			
流動資産	778	743	△35
現金及び預金	443	350	△92
その他	335	392	+57
固定資産	2,150	2,191	+41
有形固定資産	1,298	1,333	+35
無形固定資産	197	212	+15
投資その他の資産	655	645	△9
資産合計	2,931	2,937	+5
負債の部			
有利子負債	1,520	1,519	△1
短期借入金・CP	514	466	△48
長期借入金・社債	1,006	1,052	+46
その他の負債	598	620	+22
負債合計	2,119	2,140	+21
純資産の部			
株主資本	722	688	△34
資本金・資本剰余金	474	474	±0
利益剰余金	247	213	△34
その他の包括利益累計額合計	△35	△22	+13
少数株主持分	126	130	+4
純資産合計	812	796	△16
負債純資産合計	2,931	2,937	+5

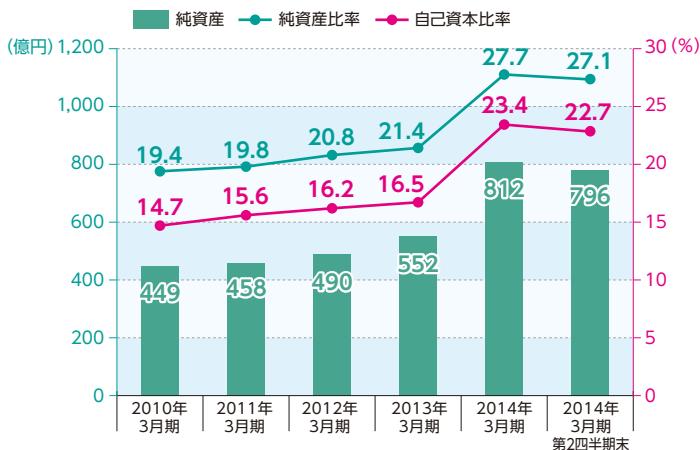
Closeup

**公募増資による調達資金を活用した
継続的な出店を実施**

2014年3月に実施した公募増資による調達資金267億円を、計画に従い新規出店等の設備投資に充当したこと等により、現金及び預金は92億円減少いたしました。

有形固定資産につきましては、新規出店に伴う設備投資等による増加と、減価償却等による減少等により、35億円増加いたしました。

自己資本及び純資産



POINT
4

フリー・キャッシュ・フローは対前年で減少

営業キャッシュ・フローにつきましては、税金等調整前四半期純損失の計上等やたな卸資産の増加等により、前年に対し34億円の減少となりました。投資キャッシュ・フローにつきましては、「はま寿司」の順調な出店に伴う設備投資が増加したことが主要因で、前年に対し2億円の支出増となりました。

以上の結果、フリー・キャッシュ・フローは対前年で58億円の減少となりました。

連結キャッシュ・フロー (要旨)

(億円・切り捨て)

	2014年3月期 第2四半期累計	2015年3月期 第2四半期累計	増減
現金及び現金同等物の期首残高	186	443	+256
営業キャッシュ・フロー	100	65	△34
投資キャッシュ・フロー	△115	△117	△2
財務キャッシュ・フロー	△12	△42	△30
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	0	△0
現金及び現金同等物の四半期末残高	164	350	+185
フリー・キャッシュ・フロー	△14	△73	△58

4

2015年3月期業績予想の修正

連結損益計算書 (要旨)

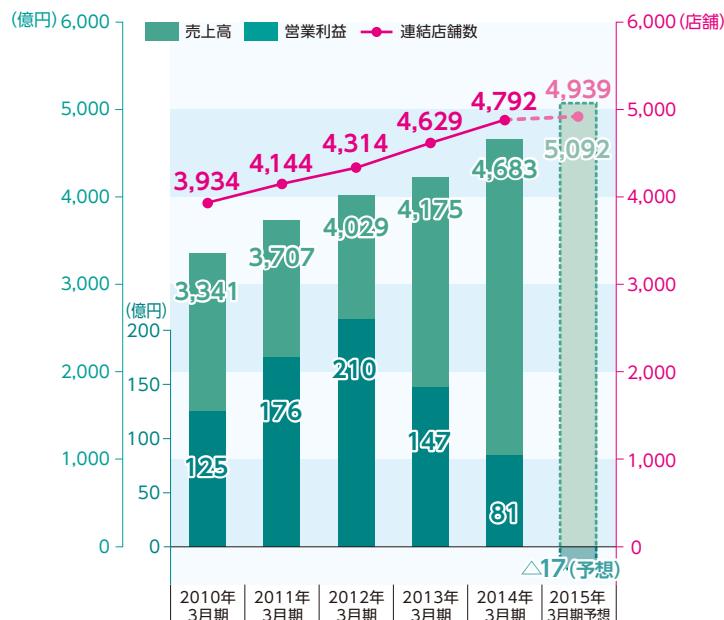
(億円・切り捨て)

	2014年 3月期	2015年 3月期		対前年	
	実績	前回 修正予想	今回 修正予想	前年差	前年比
売上高	4,683	5,250	5,092	+409	+9.9%
営業利益	81	80	△17	△99	—
経常利益	79	68	△24	△103	—
当期純利益	11	△13	△75	△86	—

Closeup

2014年11月10日に業績予想の修正を発表

2015年3月期の業績につきましては、牛肉をはじめとする食材価格のさらなる上昇が予想されることに加え、当社グループの主要業態である牛丼チェーン「すき家」において、深夜時間帯に複数人勤務体制が調わない店舗について、10月1日より深夜営業を一時休止している影響等により、前回(2014年8月)の修正予想をさらに下回る見込みであります。

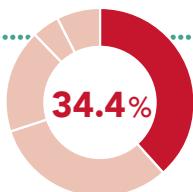


外食事業

1 牛丼カテゴリー

前年比 **-1.8%**

2015年3月期 第2四半期売上高
855億56百万円



牛丼カテゴリーの当第2四半期末店舗数は、42店舗出店、31店舗退店した結果、2,561店舗となりました。「すき家」では、牛肉価格の世界的な高騰を受け、8月27日に牛丼並盛の価格を250円+税(税込270円)から270円+税(税込291円)に改定いたしました。また、新商品として「鉄火丼」や「炭火豚丼」などを投入し商品力の強化を行うとともに、品質管理の強化に努めてまいりました。「なか卯」では、新商品・季節限定商品の投入や既存商品のブラッシュアップによる商品力の強化と店舗販促の実施により、業績の向上に努めてまいりました。

2 レストランカテゴリー

前年比 **+0.3%**

2015年3月期 第2四半期売上高
756億88百万円

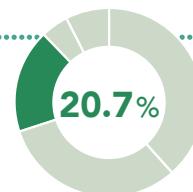


レストランカテゴリーの当第2四半期末店舗数は、4店舗出店、2店舗退店した結果1,529店舗となりました。「ココス」、「ビッグボーイ」、「ジョリーパスタ」「華屋与兵衛」をはじめとした主力業態を中心に、季節メニューの投入をはじめ、メニューのラインナップ強化および既存商品のブラッシュアップを行い、より一層おいしさの追求をしてまいりました。

3 ファストフードカテゴリー

前年比 **+30.5%**

2015年3月期 第2四半期売上高
513億21百万円

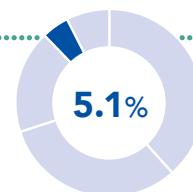


ファストフードカテゴリーの当第2四半期末店舗数は、54店舗の出店等を行った結果、659店舗となりました。「はま寿司」につきましては、積極的な出店により業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの向上に努めてまいりました。

4 その他カテゴリー

前年比 **+40.0%**

2015年3月期 第2四半期売上高
127億70百万円

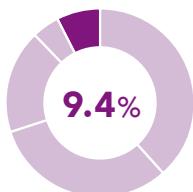


当カテゴリーの主な内訳は、ピッツァ製造販売等の株式会社トロナジャパン、水産物の加工並びに販売を行うヤマト水産食品株式会社、グループの物流機能を担う株式会社グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する株式会社グローバルテーブルサプライ等であります。

小売事業

前年比 **+71.4%**

2015年3月期 第2四半期売上高
232億51百万円



小売事業の当第2四半期末売上高は232億51百万円、営業損失は8億99百万円となりました。

当事業の内訳は、スーパーマーケット事業を展開する株式会社マルヤ、株式会社マルエイ及び青果販売等の株式会社ユナイテッドベジーズ等があります。

インタビュールーム Q & A

株主の皆様からよくお寄せいただく
ご質問にお答えします。

Q 厳しい環境のもと、業績回復の見込みはどうか？

A 食材価格およびエネルギーコストの上昇に加え、景気浮揚による労働需給バランスの悪化が懸念されるなど、
 外食産業は引き続き厳しい経営環境にあります。

ゼンショーグループでは、一日も早く「すき家」全店の24時間営業体制を確立するとともに、好調な「はま寿司」の出店を加速させ、各業態の商品力の強化と、原価コントロールのさらなる徹底で、速やかな収益力の回復を目指します。

この厳しい環境下での収益改善を実現することで、グループの経営基盤はより強固なものになると確信しています。

Q 「すき家」改革の進捗はどうか。

A 6月に「すき家」を全国7つの地域会社に分社したことで、1社あたり200～300店舗の規模で運営する体制ができ、店舗で起こる問題に対し、より機動的かつ迅速に対処できるようになりました。各社のCOOが頻繁に店舗を訪れることで従業員のモチベーションも高められ、店舗状態も向上し、結果として既存店の売り上げは前年を上回って推移しています。

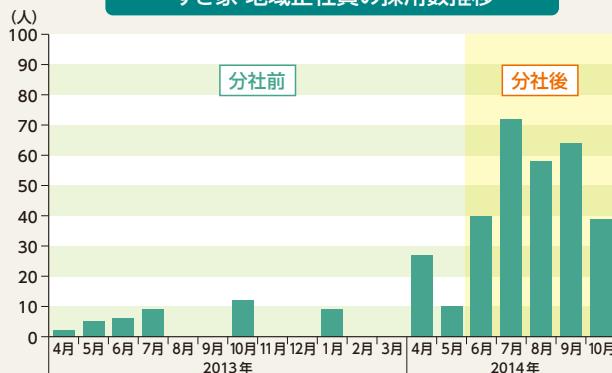
また、当社が設置した「すき家」の労働環境改善に関する第三者委員会の提言に沿い、深夜(0時～5時)の複数勤務体制も9月末までに確立しました。複数勤務体制を確立できない店舗については深夜の営業を一時休止しています。10月31日現在、676店舗が24時間体制で営業していますが、人員が確保でき次第、随時24時間営業を再開する予定です。

一方、「すき家」の職場環境改善を加速・徹底するため、社外の有識者5名で構成される「職場環境改善促進委員会」を11月14日

付で設置しました。これは現在取り組んでいる「すき家」の職場環境改善の進捗度合いを継続的に確認・評価するとともに、再発防止や信頼回復のため各委員の様々な分野の知見に基づく意見を集約し、ゼンショーホールディングス経営陣に提言することを目的としています。

また、職場環境改善促進委員会を支援するため、ゼンショーホールディングス社内に、グループの役員と社員で構成する「グループ職場環境改善改革推進室」を11月1日付で新設しました。グループ職場環境改善改革推進室は、最優先課題である「すき家」の職場環境の改善に関する情報を収集・集約し、経営陣および職場環境改善促進委員会に報告する一方、グループ各社の職場環境の改善改革にも積極的に取り組んでまいります。

すき家 地域正社員の採用数推移



店舗を回り、従業員一人ひとりと言葉交わす(株)中四国すき家小野崎社長

株主優待制度

当社では皆様の日頃のご厚情に感謝し、100株以上保有の株主の方に、当社グループでお使いいただける「株主様お食事ご優待券」をお届けしています。



100株以上300株未満	1,000円分 (500円券 × 2枚)
300株以上500株未満	3,000円分 (500円券 × 6枚)
500株以上1,000株未満	6,000円分 (500円券 × 12枚)
1,000株以上5,000株未満	12,000円分 (500円券 × 24枚)
5,000株以上	30,000円分 (500円券 × 60枚)

ご優待券をご利用いただけるお店



代替品について

300株以上保有の株主様は、代替品交換制度をご利用いただけます。



(代替品の一例)

定められた期限内に未使用で最新の株主優待券(切り離し無効)をご返送いただくと、3,000円1冊分で、ゼンショーのオリジナル商品と交換が可能です。

※詳細は株主優待券同封の「株主様お食事ご優待券のご案内」をご覧ください。

株式の状況 (2014年9月末現在)

発行可能株式総数 432,000,000株	発行済株式の総数 148,600,000株	株主数 183,695名
---------------------------------	---------------------------------	------------------------

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社 日本クリエト	48,694	32.77
小川 賢太郎	3,632	2.44
小川 一政	3,631	2.44
小川 洋平	3,631	2.44
ゼンショーグループ社員持株会	2,663	1.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,096	0.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,025	0.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	956	0.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	955	0.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	953	0.64

(注)持株比率は自己株式(23,731株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	：毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
配当金受領株主確定日	：3月31日および9月30日
定時株主総会	：毎年6月開催
基準日	：3月31日
	その他必要があるときは、あらかじめ公告して一定の日を定めます。
株主名簿管理人	：東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	：〒168-0063 東京都杉並区泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	：0120-782-031 (フリーダイヤル)
単元株式数	：100株
公告方法	：原則として当社ホームページにて行います。電子公告による ことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載して行います。

お近くのお店は「ゼンショーグループ店舗検索サイト」でご確認ください

パソコン、スマートフォンから

<http://www.zensho.co.jp/jp/shop/>

携帯から右記QRコードを読み取ってください。

<http://www.zensho.co.jp/jp/s/>

